インドネシア共和国

IPB大学
農学部・大学院

Faculty of Agriculture and Graduate School, IPB University

●学部・大学院生 約25,000人
ホームページ　https://ipb.ac.id/
交流協定締結年月日：2000年6月13日　　主管学部：農学部

SUIJIサービスラーニング送別会（2019年3月）

ボゴール植物園

IPB大学本部前での　SUIJIサービスラーニング参加者一同

国際交流の特色

IPB大学は、首都ジャカルタの南60km、標高270mに位置するボゴール市にある。農学分野の教育と研究において、インドネシアで最も卓越した大学である。農学、獣医学、畜産学、水産学、林学、数学・自然科学等の各学部に加え、熱帯生物研究、食品技術開発、熱帯果樹研究の各センター等の附属施設を有する。日本に留学した教員が多い。本学とは、園芸学、造園学、林産化学、生化学、畜産学、食品科学等の分野を中心に、研究者交流、長期・短期の留学生受入れ、短期派遣留学等が行われている。2011年に本学とIPBは、愛媛大学、高知大学、インドネシアのガジャマダ大学、ハサヌディン大学と共に「熱帯農業に関するSUIJI（Six University Initiative Japan Indonesia）コンソーシアム」協定を締結し、学部1年生から大学院生（修士・博士課程）までの学生交流を実施している。キャンパス内には国際留学生寮がある。なお、2019年新学期から大学の英語名をIPB Universityに変更した。

交流実績（令和３年度～令和５年度）

受入・派遣＼年度	R3	R4	R5
学生の受入	1	5	3
学生の派遣	0	5	2
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	1	1
オンライン交流参加者（本学）	3	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	1096	0	0

教員からの声

IPB大学は、名実ともにインドネシアにおける農学教育と研究の中心的存在です。香川大学で学んだ元留学生が、帰国後母校に戻り、大いに活躍しています。今や彼らが、留学生の派遣・受け入れや研究交流の窓口となって、次世代の国際交流を育む役割を担ってくれています。おおらかなインドネシアの人々や多様な自然や文化に触れてみませんか。彼らもきっと「日本の母校」からの皆さんを大歓迎してくれることと思います。2012年以降はSUIJIの種々のプログラムで多くの教員、大学院生、学部学生（特に1～2年生）が双方向で交流しています。

前理事・副学長　片岡郁雄

学生からの声

私がSUIJI-JP-Msおよびその留学先としてIPBを選択した主な理由は、留学期間を自分で設定できること、同様のプログラムで留学をした先輩が学内にいることなどがあげられます。実際にIPBに行くと、日本の文化に関心を抱く学生や、香川大学で博士号を取得された教授が多くおられました。こうした背景は留学のハードルを下げ、現地での生活をより快適に、より有意義にしてくれました。多くの文化が入り混じるインドネシアには、様々な価値観を持った学生がいます。また、学内にある国際寮では多様な国からの留学生が生活を共にしています。異なるバックグラウンドを持つ学生との多分野にわたる議論は、凝り固まった自分の価値観に多くの刺激を与えました。劇的な環境の変化を求めて留学を決めた私には理想的な国だったといえます。学内外での生活を通し、語学力（英語）が向上したことはもちろんのこと、自分を見つめ直すことができました。インドネシアへの留学は、現状に疑問を抱き、変化を求める学生にとって極めて有意義なものになると断言します。

農学研究科修士課程（2019年度SUIJI-JP-Ms）1年生
金川優樹